

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 6 部門第 3 区分
【発行日】 令和 5 年 3 月 23 日 (2023.3.23)

【公開番号】 特開 2022-105608 (P2022-105608A)
【公開日】 令和 4 年 7 月 14 日 (2022.7.14)
【年通号数】 公開公報 (特許) 2022-128
【出願番号】 特願 2022-80542 (P2022-80542)
【国際特許分類】

G 0 6 Q 50/10 (2012.01)

G 0 6 F 21/62 (2013.01)

【F I】

G 0 6 Q 50/10

G 0 6 F 21/62 3 4 5

【手続補正書】

【提出日】 令和 5 年 3 月 12 日 (2023.3.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 全文

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、個人情報提供システムに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、個人情報はサイトごと会社ごとに管理されていた。今までは各企業のサイトに個々にアクセスして入って行かなければ自分のマイル等を確認できず、煩わしかった。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

そこで、本発明は、個人が、サイトや会社の垣根を越えて、自分の情報を管理できるようにすることを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0004】

この課題を解決するため、本発明は、

【0005】

本人の個人データが記述されているページのアドレスを含む参加サイト情報をサイトごとに記憶した記憶部の、当該アドレスに基づき複数のサイトから上記個人データを取得して一元管理インターフェースに出力させるステップを、プロセッサが実行する、という構成を採っている。

【発明の効果】

【0006】

本発明によれば、個人が、サイトや会社の垣根を越えて、自分の情報を管理することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図 1】 図 1 は、本発明の実施形態を示すブロック図である。

10

20

30

40

50

【図 2】図 2 は、図 1 の個人情報 D B に格納されるデータの構造図である。

【図 3】図 3 は、図 1 の管理サーバが本人システムのブラウザに提供する画面の構成図である。

【図 4】図 4 は、本発明の他の実施形態を示すブロック図である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

本実施形態は、個人情報データベース（個人情報 D B）に登録されている個人情報をコンピュータネットワークを通じて提供する個人情報提供システムに関する。

従来、例えば引越をした場合、勤務先、役所、郵便局、銀行、保険会社、その他の様々な機関に住所変更の届けを別々に行う必要があり、重複する届出の作業量が膨大であった。また、ネットモール等のインターネットサイトにおいても、同じサイト内であれば、以前に入力した個人情報を利用することができるが、他のサイトでは、新たに個人情報を入力しなければならず、やはり、社会全体として膨大な重複入力の作業を強いられていた。

そこで、本実施形態は、個人情報を重複して入力する労力を軽減することを課題とする。

この課題を解決するため、本実施形態は、個人情報の記憶部と、この記憶部の個人情報をコンピュータネットワークを介して外部の許可されたコンピュータにコピーさせる手段とを備えた、という構成を採っている。

本システムの記憶部に記憶された個人情報は、外部の許可されたコンピュータの記憶部にコピーされる。

よって、本実施形態によれば、個人情報を重複して入力する労力を軽減することができる。

以下、本発明の実施形態を図面を参照して説明する。図 1 は、本実施形態のシステム構成図である。この図 1 において、コンピュータネットワーク 100 には、複数のコンピュータ 10～40 が接続されている。本人システム 10 は、本人 P が利用するコンピュータであり、サーバコンピュータから受信したプログラムを実行するブラウザ 11 と、I C カード（I C チップ）C から情報を読み込むカードリーダー 12 とを備えている。

本人システム 10 は、スマートフォンやタブレット端末等の携帯端末でもよい。I C カード C を利用しない場合、カードリーダー 12 は装備されていなくてもよい。

【0009】

事業者システム 20 は、本人 P にサービスを提供する事業者が利用するコンピュータであり、本人 P の個人情報が登録されたローカルデータベース（ローカル D B）21 を備えている。図 1 では、2 台の事業者システム 20 をコンピュータネットワークに接続しているが、より多くの事業者システム 20 が接続されてもよい。

【0010】

管理サーバ 30 は、本人 P の個人情報等を管理するコンピュータであり、個人情報 D B 31 に接続されている。A～E の各サイトサーバ 40 は、それぞれ、本人 P がメンバーになっているサイトを運営するコンピュータであり、あるサイトでは、本人 P は商品やサービスを提供する側のユーザであり、別のサイトでは、本人 P は商品やサービスを受ける側のユーザであり、サイトにより本人 P の立場が異なる。例えば、あるサイトでは、本人 P は商品の生産者として参加し、別のサイトでは、本人 P はネットモールの消費者として参加し、更に別のサイトでは、本人 P は商品を宣伝する者として参加する。

【0011】

図 2 は、個人情報 D B 31 に格納される個人情報等のデータ構造図であり、個人識別子 32 ごとに、参加サイト情報 33 と、個人情報 34 と、同期許可リスト 35 とを紐付けている。個人識別子 32 は、個人を一意に特定する識別子であり、マイナンバー等でもよい。また、個人識別子 32 は、電子マネー番号、クレジットカード番号、ポイントカード番号、口座番号、装置の固有番号等でもよい。

【0012】

参加サイト情報 33 は、個人識別子 32 に対応する個人が参加しているサイトの U R L やユーザ I D 等を含む。よって、各サイトサーバ 40 のユーザ I D も個人識別子 32 に紐

付けられているが、個人識別子とサイトサーバ４０のユーザＩＤとが同一であってもよい。個人情報３４は、個人識別子３２に対応する個人の住所、氏名、生年月日及び性別等を含む。同期許可リスト３３は、個人識別子３２に対応する個人が個人情報３４の同期を許可している事業者のＩＤのリストである。個人情報３４の同期とは、個人情報ＤＢ３１に個人情報３４が登録又は変更されたのちに、その個人情報３４を事業者システム２０又はサイトサーバ４０のローカルＤＢ２１（記憶装置）に反映（コピー、取得、登録又は更新）することをいう。同期許可リスト３３には、個人情報ＤＢ３１に個人情報３４を登録又は変更することができるユーザのＩＤと、個人情報ＤＢ３１に登録されている個人情報３４の提供を受けることができるユーザのＩＤとが登録されている。

10

【００１３】

次に、本実施形態の種々の動作を説明する。

【００１４】

〔動作１〕本人による個人情報の登録又は変更１（本人による入力）

本人Ｐは、本人システム１０から管理サーバ３０のサービスにログインする。本人システム１０のブラウザ１１は、管理サーバ３０から提供された個人情報３４の登録又は変更フォームを表示する。本人Ｐは、このフォームに新規又は変更後の個人情報３４を入力する。本人システム１０は、入力された個人情報３４を本人Ｐの個人識別子３２に紐付けて管理サーバ３０に送信する。管理サーバ３０は、本人システム１０から受信した個人情報３４を対応する個人識別子３２に紐付けて個人情報ＤＢ３１に登録又は更新する。

20

【００１５】

〔動作２〕本人による個人情報の登録又は変更２（ＩＣカード等からの読み込み）

本人Ｐは、本人システム１０から管理サーバ３０のサービスにログインする。本人システム１０のブラウザ１１は管理サーバ３０から提供された個人情報３４の要求画面を表示する。本人Ｐは、個人情報３４が登録されているＩＣカード等のＩＣチップＣをカードリーダー１２に読ませる。本人システム１０は、ＩＣチップＣに登録されていた個人情報３４をカードリーダー１２を通じて読み込み、読み込んだ個人情報３４を本人Ｐの個人識別子３２に紐付けて管理サーバ３０に送信する。管理サーバ３０は、本人システム１０から受信した個人情報３４を対応する個人識別子３２に紐付けて個人情報ＤＢ３１に新規登録又は更新する。ＩＣカードＣは、例えば、プリペイド、ポストペイ、デビット、ポイント等に対応した決済用カードでもよい。又は、ＩＣカードＣは、住所、氏名等の個人情報を入力するための専用カードでもよい。又は、ＩＣカードは、個人情報入力用の専用カードに、決済機能を付加したカードでもよい。その他、ＩＣカードＣは、金融カード、スーパー・百貨店・コンビニ系カード、交通系カード、市民カード等でもよい。

30

【００１６】

〔動作３〕事業者による個人情報の登録又は変更

例えば、事業者Ｑは、事業者システム２０から管理サーバ３０のサービスにログインする。事業者システム２０は、ローカルＤＢ２１に登録されている本人Ｐの個人情報３４を本人Ｐの個人識別子３２に紐付けて管理サーバ３０に送信する。管理サーバ３０は、同期許可リスト３５を参照し、事業者Ｑからの個人情報３４の登録又は変更の許可が、本人Ｐの個人識別子３２に紐付けられているか判定する。この結果、許可されている場合、管理サーバ３０は、事業者システムから受信した個人情報３４を本人Ｐの個人識別子３２に紐付けて個人情報ＤＢに新規登録又は更新する。一方、許可されていない場合、管理サーバ３０は、個人情報ＤＢ３１への登録を拒否する。

40

【００１７】

〔動作４〕登録又は変更された個人情報の同期１（セッション中の同期）

管理サーバ３０は、個人情報ＤＢ３１に個人情報３４が登録又は変更されたことを検知すると、同期許可リスト３５を参照し、当該個人情報３４に対応する個人識別子３２に紐付けて同期が許可されている事業者のＩＤを判定する。そして、管理サーバ３０は、同期が許可されている事業者のＩＤのうち、管理サーバ３０のサービスにログインしているセッション中の事業者システム２０に対し、新規又は変更後の個人情報３４を対応する個人

50

識別子 3 2 に紐付けて送信する。この個人情報 3 4 を受信した事業者システム 2 0 は、受信した個人情報 3 4 を対応する個人識別子 3 2 に紐付けてローカル DB 2 1 に新規登録又は更新する。

【0018】

〔動作 5〕登録又は変更された個人情報の同期 2（電子メールによる提供）

管理サーバ 3 0 は、個人情報 DB 3 1 に個人情報 3 4 が登録又は変更されたことを検知すると、同期許可リスト 3 5 を参照し、当該個人情報 3 4 に対応する個人識別子 3 2 に紐付けて同期が許可されている事業者の ID を判定する。そして、管理サーバ 3 0 は、同期が許可されている事業者の ID に紐付けられている電子メールアドレスを図示しないユーザ DB から読み出し、当該電子メールアドレスに宛てて、新規又は変更後の個人情報 3 4 と対応する個人識別子 3 2 を含む電子メールメッセージを送信する。この個人情報 3 4 を電子メールにより受信した事業者システム 2 0 は、当該個人情報 3 4 を対応する個人識別子 3 2 に紐付けてローカル DB 2 1 に登録又は更新する。

10

【0019】

〔動作 6〕登録又は変更された個人情報の同期 3（電子メールによるアドレスの提供）

管理サーバ 3 0 は、個人情報 DB 3 1 に個人情報 3 4 が登録又は変更されたことを検知すると、同期許可リスト 3 5 を参照し、当該個人情報 3 4 に対応する個人識別子 3 2 に紐付けて同期が許可されている事業者の ID を判定する。そして、管理サーバ 3 0 は、同期が許可されている事業者の ID に紐付けられた電子メールアドレスを図示しないユーザ DB から読み出し、当該電子メールアドレスに宛てて、新規又は変更後の個人情報 3 4 及び対応する個人識別子 3 2 が記述されたファイルの場所（URL 等）を示した電子メールメッセージを送信する。この個人情報の場所を電子メールにより知った事業者システム 2 0 は、当該場所にアクセスして変更後の個人情報 3 4 及び対応する個人識別子 3 2 を取得し、両者を紐付けてローカル DB 2 1 に登録又は更新する。

20

【0020】

〔動作 7〕要求に応じた個人情報の提供

管理サーバ 3 0 は、サービスにログインした事業者システム 2 0 又は本人システム 1 0 等から個人識別子 3 2（携帯電話番号等）を指定した個人情報 3 4 の提供要求を受信すると、同期許可リスト 3 5 を参照し、要求元への個人情報 3 4 の提供の許可が当該個人識別子 3 2 に紐付けられているか否かを判定する。その結果、許可が紐付けられている場合、管理サーバ 3 0 は、当該個人識別子 3 2 に紐付けられた個人情報 3 4 を要求元へ送信する。

30

【0021】

〔動作 8〕サイトが提供するフォーム画面への個人情報の自動入力

本人 P は、本人システム 1 0 から管理サーバ 3 0 のサービスへログインする。管理サーバ 3 0 は、本人システム 1 0 に対し図 3 に示す本人 P 用のポータル画面を送信する。本人 P は、本人システム 1 0 のブラウザ 1 1 によりこのポータル画面を閲覧する。ポータル画面には、本人 P が参加している各サイト A～E へのリンクが表示されている。管理サーバ 3 0 は、本人 P の個人識別子 3 2 に紐付けられた参加サイト情報 3 3 を参照することにより、本人 P が参加しているサイトの URL を読み出し、各サイト A～E へのリンクを生成するようになっている。本人 P が例えば A サイトへのリンクをクリックすると、ブラウザは A サイトサーバ 4 0 に接続し、A サイトサーバ 4 0 のサービス画面を取得して表示する。B～E サイトについても同様である。

40

【0022】

また、ポータル画面には、個人情報 3 4 の管理メニューが設けられている。本人 P が個人情報 3 4 の管理メニューをクリックすると、管理サーバ 3 0 は、本人 P の個人識別子 3 2 に紐付けられた個人情報 3 4、同期許可リスト 3 5 又は参加サイト情報 3 3 のメンテナンス GUI をブラウザ 1 1 に提供する。本人 P は、そのメンテナンス GUI を介して個人情報 DB 3 1 に個人情報 3 4、同期許可リスト 3 5 又は参加サイト情報 3 3 を登録することができる。また、本人 P は、そのメンテナンス GUI を介して個人情報 DB 3 1 に登録

50

されている個人情報 3 4、同期許可リスト 3 5 又は参加サイト情報 3 3 を変更することができる。

【0023】

ところで、本人 P がポータル画面からリンク先の各サイト A ～ E へ遷移すると、遷移先のサイトサーバ 4 0 は、提供するサービスに応じたプログラムをブラウザ 1 1 に送信し実行させる。このプログラムにより、ブラウザ 1 1 は、個人情報 3 4 の入力フォームを表示する場合がある。各サイト A ～ E からブラウザ 1 1 に提供されたプログラムは、入力フォームに入力する個人情報 3 4 を、管理サーバ 3 0 に要求する機能を備えている。この機能により、管理サーバ 3 0 は、本人 P の個人識別子 3 2 又はサイトのユーザ ID に対応する個人情報 3 4 を個人情報 DB 3 1 から読み出して要求元のブラウザ 1 1 に送信する。管理サーバ 3 0 から本人 P の個人情報 3 4 を受信したブラウザ 1 1 内のプログラムは、受信した個人情報 3 4 をブラウザ 1 1 に表示中の個人情報 3 4 の入力フォームに自動的に挿入して表示する。

10

つまり、本発明において、ブラウザ 1 1 に提供されたプログラムは、入力フォームに入力する個人情報 3 4 を、管理サーバ 3 0 に要求する機能を備えている。この機能により、管理サーバ 3 0 は、本人 P の個人識別子 3 2（例えば、携帯電話番号）又はサイトのユーザ ID に対応する個人情報 3 4 を個人情報 DB 3 1 から読み出して要求元のブラウザ 1 1 に送信する。管理サーバ 3 0 から本人 P の個人情報 3 4 を受信したブラウザ 1 1 内のプログラムは、受信した個人情報 3 4 をブラウザ 1 1 に表示中の個人情報 3 4 の入力フォームに自動的に挿入して表示する。

20

サイトサーバ 4 0 が、会員登録を行う場合、入力フォームの登録事項入力欄に個人情報 3 4 を挿入して表示することが考えられる。また、サイトサーバ 4 0 が、ネットショップのサービスを提供する場合、入力フォームの商品送り主の欄又は商品届け先の欄に個人情報 3 4 を挿入して表示することが考えられる。

【0024】

〔動作 9〕個人データのサイト横断的な一元管理インターフェース 1

本実施形態において、図 2 に示す参加サイト情報 3 3 には、各サイトごとに本人 P の個人データが記述されているマイページのアドレスが登録されている。個人データは、例えば、各サイトで購入した商品の保証書情報、各サイトに貯めているポイントやマイルの情報等である。図 3 に示す個人データ管理画面において、本人 P が各サイトへのリンクボタンをクリックすると、管理画面のプロセスは、本人 P の個人識別子に紐付けられた参加サイト情報 3 3 を参照することにより、選択されたサイトのコンピュータから、本人 P の個人データが記述されているマイページのデータを読み込み、読み込んだマイページのデータをインラインフレーム等の技術により管理サーバ 3 0 のドメインのページの中に表示する。本人 P は、一つの管理画面を利用して参加している複数のサイトの個人データを閲覧することが可能となる。管理画面のプロセスは、マイページのデータを取得する際に本人 P によるログイン認証が必要な場合は、参加サイト情報 3 3 に予め登録されている各サイトのログイン認証情報を読み出して各サイトへのログインを自動実行する。

30

【0025】

〔動作 10〕個人データのサイト横断的な一元管理インターフェース 2

本実施形態において、図 2 に示す参加サイト情報 3 3 には、各サイトごとに本人 P の個人データのアドレスが登録されている。図 3 に示すポータル画面において、本人 P が各サイトへのリンクボタンをクリックすると、管理画面のメインプロセスは、選択されたサイトに対応するデータ取得プロセスを起動する。データ取得プロセスは、本人 P の個人識別子に紐付けられた参加サイト情報 3 3 を参照することにより、選択されたサイトのコンピュータから、本人 P の個人データを定期的に読み込み、読み込んだ個人データをデータ取得プロセスのユーザインターフェースに随時更新する。本人 P は、一つの管理画面を利用して参加している複数のサイトの個人データを閲覧することが可能となる。データ取得プロセスは、個人データを取得する際に本人 P によるログイン認証が必要な場合は、参加サイト情報 3 3 に予め登録されている各サイトのログイン認証情報を読み出して各サイトへ

40

50

のログインを自動実行する。

【0026】

以上の動作9及び10の実施形態は、次の思想に基づいている。即ち、従来、個人情報
はサイトごと会社ごとに管理されていた。今までは各企業のサイトに個々にアクセスして
入って行かなければ自分のマイル等を確認できず、煩わしかった。それに対し、動作9及
び10の実施形態は、個人が、サイトや会社の垣根を越えて、自分の情報を管理するもの
である。つまり、今までは物、サービスや企業をキーとして縦に管理されていた情報を、
個人という横系で管理するという考え方であり、データの権限は企業ではなくその人個人
にあるという考え方でもある。個人の画面で自分に関する様々な情報をサイトや企業を超
えて一括で見られるということ自体が新しい発想である。

10

【0027】

更に、この管理画面内にSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）のインタ
ーフェースを設け、個人に関するあらゆる情報の発信受信をすることも考えられる。反対
に、SNSプラットフォームの上で動作9及び10の管理画面を提供し、SNSをあらゆる
個人情報の管理に役立てることも考えられる。個人情報のうち、公開してもよいものは
公開可にしておけば公開されるし、公開不可にしておけば公開されないという仕組みにし
てもよい。

【0028】

ここで、上述した各動作において、各コンピュータの動作は、プロセッサがプログラム
を実行することにより行われる。入力キーボード等の入力装置から行われる。表示は液
晶モニタ等の表示装置により行われる。コンピュータ間の通信は、インターネット等のコ
ンピュータネットワーク及びルータ等の通信装置を介して行われる。プロセッサが処理に
用いるデータは主記憶又は補助記憶から読み出され、処理後のデータは主記憶又は補助記
憶に記憶される。

20

【0029】

〔各動作による効果〕

本人が個人情報DBに個人情報を登録又は変更すると、その個人情報が事業者システ
ムのローカルDBに同期されるので、本人Pは各事業者個別に個人情報の登録又は変更手
続をする必要がなくなり、手続の重複労力が軽減される。その際、事業者のローカルDB
への同期は本人の許可に基づいて行われるので、本人が意図した範囲内で個人情報の同期
を行うことができ、意に反した個人情報の同期を防止することができる。かつ、本人が同
期を許可する事業者を設定できるので、都度、同期先を選択することが可能である。

30

【0030】

更に、新規又は変更後の個人情報をICチップから読み込む場合、ICチップから信頼
性の高い個人情報を読み込むことができると共に、本人は個人情報の入力作業を行う必要
がない。

【0031】

また、本人に許可された事業者は個人情報DBに本人の個人情報を登録又は変更するこ
とができ、その個人情報は本人に許可された事業者のローカルDBに同期されるので、上
記の効果に加え、例えば、個人情報を変更する事業者が役所であれば、信頼性の高い個人
情報が他の事業者のローカルDBに同期されるので、信頼性の高いシステム運用が期待で
きる。

40

【0032】

また、本人が参加しているサイトのサービスにおいて個人情報の入力フォームに、個人
情報DBで管理されている個人情報を自動的に入力することができるので、サイトごとに
個人情報を入力しなければならない、という個人情報を入力する作業の重複労力を軽減す
ることができる。

【0033】

〔本人システム10としての携帯端末〕

上記の実施形態において、本人システム10は、スマートフォンやタブレット端末等の

50

携帯端末でもよい。この場合、本人システム１０は、管理サーバ３０に代えて個人情報ＤＢ３１を管理するための管理プロセス３０を備えていてもよい。また、本人システム１０は、当該管理プロセス３０によって管理される個人情報ＤＢ３１を備えていてもよい。

【００３４】

図４は、当該管理プロセス３０と個人情報ＤＢ３１とを備えた本人システム１０の構成を示す。管理プロセス３０は、前述した管理サーバ３０と同様に個人情報ＤＢ３１に対して個人情報の入出力を行う機能を備えている。個人情報ＤＢ３１は、前述した実施形態の構成と同様であり、携帯端末に内蔵されたＩＣチップに個人情報を記録するものでもよい。入力装置１４、表示装置１５及び通信装置１６の機能は、前述の通りである。入力装置１４及び表示装置１５は、タッチパネルでもよい。このように構成しても、前述した実施形態と同様の動作を実行することができる。前述した実施形態と同様の動作は、携帯端末にダウンロードされインストールされたアプリケーションプログラム（アプリ）を、プロセッサが実行することにより実現されてもよい。

【００３５】

〔ＩＣカードへの個人情報のコピー〕

図１及び図４において、事業者システム２０は、ローカルＤＢ２１に代えて記憶部２１（ＩＣチップ）を有するＩＣカードを備えてもよい。この場合、個人情報ＤＢ３１に登録又は更新された個人情報３４が、事業者システム２０においてＩＣカードのＩＣチップ２１にコピーされる。例えば、事業者システム２０は自動販売機であってもよい。この自動販売機が、個人情報３４を記録したＩＣカードを本人に発行する機構を備えていてもよい。

また、本人システム１０は、個人情報ＤＢ３１に登録又は更新された個人情報３４を取得し、カードリーダ１２を通じてＩＣカードＣのＩＣチップに当該個人情報３４に登録してもよい。

【００３６】

ここで、発明は実施形態に記載された以外にも趣旨を逸脱しない他の実施形態をも包含する。実施形態は発明の説明をするものであって、その範囲を限定するものではない。発明の範囲は、クレームの記載によって示されるものであって、明細書の記載によって示されるものではない。従って、発明は、クレームの均等の範囲内における意味や範囲を含む総ての形態を包含する。

【符号の説明】

【００３７】

- １０ 本人システム
- １１ ブラウザ
- １２ カードリーダ
- １３ プロセッサ
- １４ 入力装置
- １５ 表示装置
- １６ 通信装置
- ２０ 事業者システム
- ２１ ローカルＤＢ
- ３０ 管理サーバ
- ３１ 個人情報ＤＢ
- ３２ 個人識別子
- ３３ 参加サイト情報
- ３４ 個人情報
- ３５ 同期許可リスト
- ４０ サイトサーバ
- P 本人
- Q, R 事業者

10

20

30

40

50

【手続補正２】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項１】

本人の個人データが記述されているページのアドレスを含む参加サイト情報をサイトごとに記憶した記憶部の、
前記アドレスに基づき複数のサイトから前記個人データを取得して一元管理インターフェースに出力させるステップを、
プロセッサが実行する個人情報提供方法。

10

【請求項２】

前記プロセッサが、前記個人データの取得を定期的に行って前記一元管理インターフェースの表示を更新するステップを実行する、請求項１に記載の個人情報提供方法。

【請求項３】

前記個人データを表示する一元管理インターフェースの一部に、個人に関する情報を発信可能なSNSのユーザインターフェースを有し、
前記プロセッサが、前記個人データのうち「公開可」に設定されているものを前記SNSのユーザインターフェースを通じて公開するステップを実行する、請求項１に記載の個人情報提供方法。

20

【請求項４】

個人に関する情報を発信可能なSNSのユーザインターフェースの一部に、前記個人データを表示する一元管理インターフェースを有し、
前記プロセッサが、前記個人データのうち「公開可」に設定されているものを前記SNSのユーザインターフェースを通じて公開するステップを実行する、請求項１に記載の個人情報提供方法。

【請求項５】

請求項１，２，３又は４に記載の前記ステップを前記プロセッサに実行させる、個人情報提供プログラム。

30

【請求項６】

本人の個人データが記述されているページのアドレスを含む参加サイト情報をサイトごとに記憶した記憶部と、
前記アドレスに基づき複数のサイトから前記個人データを取得して一元管理インターフェースに表示させるプロセッサと、
を備えた個人情報提供システム。

40

50